



金野桃子

埼玉県

戸田市議

議

員

提

案

こんの・ももこ
1983年生まれ。慶応大大学院法務研究科修了。元内閣府職員（非常勤）。国会議員公設秘書として社会保障関連の現場で働く中、地方政治の大切さを実感し、地元での政治活動に意欲を感じ、2013年戸田市議選で初当選。1期目。

首長の判断を 複数の視点でチェック 議会の本質は多様性

県議会議員の方が市議選への挑戦を促してくださったのです。自分に何ができるかと大変悩みましたが、自分の育った街の未来に向けて、私たちの世代も始めなければならぬと立候補を決心し、皆さんのお力で市政へ送り出していただきました。

就任して約2年が過ぎますが、私は地方議会の大切さを日々強く感じています。それは、市政が動くことを実感しているからです。地方政治は国政と異なり、市長と議員がともに市民を代表するという二元代表制を採っていますが、市長の権限は想像以上に大きいと感じています。市長が多数決によって直接選ばれ、権限が大きいからこそ、市政運営が市民の多様な思いに寄り添っているかをチェックし、多様な声や声なき声を届けることが大切です。これこそが議会の仕事であり、1人の市長の判

断に対して複数いる議員がそれぞれの視点で意見を述べることで、より深く深い視点でまちづくりを行うことができます。議会の本質の一つは多様性にあると考えています。

私もその多様性の一つとして、若い世代や女性、政治に関心の薄い方々の声を届けたいと思っています。より声を聞けるように、フェイスブックなどで情報を発信し、議会ごとにリポートを作り朝晩、駅頭でお配りしているほか、市政報告会を開いています。これまですべての議会で一般質問に立ち、パネルを使うなどの工夫をしています。また、議会に働きかけて議案書などのインターネット公開、議場貸し出しを始め、議会の議論を皆さんとリアルタイムで共有できるように取り組んでいます。こうしていただいたご意見について、その背後にある問題を考え、

現場のご意見を伺い、行政担当者
と長時間話し合いをしながら、より良い政策を提案するよう努めています。これまでに、ひとり親の寡婦控除みなし適用、公共施設再編の公開講座、監査結果の公開、オープンデータの利活用、ポイ捨て・歩行喫煙禁止、子ども子育て会議の市民参加、女性医師による子宮がん検診、聴覚障がい者のための耳マーク・振動呼出装置などを提案し、少しずつ前進しています。

市政を動かすほどの大きな力が議員に与えられているのは、市民の皆さんの負託があるからです。政党に所属せず、支援組織もない私がこうして働くことができるのも、ひとえに皆さんの応援があつてこそです。いまだ試行錯誤の日々ですが、皆さんの応援を力に変えて、これからも一生懸命働いていきます。

私は幼い頃から、将来は世の中の役に立つ仕事をしたいと思い、大学では法律を学びました。転機になったのは東日本大震災です。岩手の祖父母や親戚、出張中の父など、家族が大勢被災し、何か役に立ちたいと内閣府で被災者支援のために働きました。その後、国会議員秘書として政策立案に携わりました。

大学で地方自治を学び、中央省庁や国会で働く中で「人は街によって育てられ、やがて自分たちが街を作っていく」という大切なことを学びました。そんな折、10年来家族ぐるみで交流のある若手の